



熊本市 感染症発生動向調査 速報



★手足口病が6週連続警報レベルを超えています!!引き続き注意が必要です!!

トピックス ヘルパンギーナについて

コクサッキーウイルスやエコーウイルスなどの、エンテロウイルスの感染によって、口の中の粘膜に小さな水ぶくれ(水疱)ができる感染症です。4歳以下の感染がほとんどで、1歳が一番多い傾向にあります。



◆どんな病気？

- ・**症状**……突然の発熱(38～39℃)に続いて、のどが赤く腫れて痛み、口の中の粘膜に直径1～2mmほどの小さな水疱ができます。水疱が破れて浅い潰瘍になると痛みを伴います。
- ・**感染経路**…感染者のくしゃみのしぶきや鼻水、水疱、便の中に含まれるウイルスが、手などを介して口や鼻の中に運ばれることによって感染します。症状がなくなったあとも、2～4週間は便の中にウイルスが排泄されます。
- ・**潜伏期間**…2～4日程度
- ・**流行期**……夏～秋に流行が見られます。5月頃より増加し始め、6～7月にピークがあり、8月以降は減少します。

◆かかったらどうすればいいの？

- ・ほとんどの場合、特別な治療は必要なく自然に治りますが、まれに髄膜炎や心筋炎を合併することがあります。元気がなくぐったりしていたり、頭痛や嘔吐、高熱、脱水症状があるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。
- ・口の中を痛がって、水分や食事がとれなくなることがあります。薄味でやわらかいもの、白湯やスポーツ飲料などをこまめにとらせ、脱水にならないようにすることが大切です。

◆予防法は？

- ・手洗いが基本です。特に感染者の排便後の手洗いが重要です。感染している子どものおむつを取り替えたり、鼻水をとったりした後は、しっかり手を洗いましょう。

◆学校保健法における取り扱い(2014年7月23日現在)

ヘルパンギーナは学校において予防すべき伝染病の中には明確に規定されては無く、一律に「学校長の判断によって出席停止の扱いをするもの」とはなりません。欠席者が多くなり、授業などに支障をきたしそうな場合、流行の大きさ、あるいは合併症の発生などから保護者の間で不安が多い場合など、「学校長が学校医と相談をして第3種学校伝染病としての扱いをすることがあり得る病気」と解釈されます。主症状から回復した後も、ウイルスは長期にわたって便から排泄されることがあるので、急性期のみの登校登園停止による学校・幼稚園・保育園などでの厳密な流行阻止効果は期待ができません。大部分は軽症疾患であり、登校登園については手足口病と同様、流行阻止の目的というよりも患者本人の状態によって判断すべきであると考えられます。(国立感染症研究所「ヘルパンギーナとは」より抜粋)

期 間		2019年 25週		2019年 26週	
		6/17～6/23		6/24～6/30 (最新)	
疾患名 <small>(百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました)</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	➡	0	0.00	0	0.00
RSウイルス感染症	➡	1	0.06	0	0.00
咽頭結膜熱(プール熱) ★これから注意	➡	5	0.31	7	0.44
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	35	2.19	29	1.81
感染性胃腸炎	➡	73	4.56	64	4.00
水痘(みずぼうそう)	➡	4	0.25	2	0.13
手足口病 ★警報レベル!!	➡	132	8.25	127	7.94
伝染性紅斑(りんご病)	➡	6	0.38	10	0.63
突発性発しん	➡	13	0.81	14	0.88
ヘルパンギーナ ★これから注意	➡	20	1.25	28	1.75
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	➡	1	0.06	2	0.13
急性出血性結膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目) ★これから注意	➡	7	1.40	13	2.60
細菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	➡	0	0.00	1	0.20
マイコプラズマ肺炎	➡	0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	➡	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	5	1.00	1	0.20